

原発不明・希少がん科

1. 原発不明・希少がん科の特色

原発不明・希少がん科では、主として外科的切除後の再発や、遠隔転移や主要臓器浸潤のため外科的切除の適応とならない患者さんを対象として、抗悪性腫瘍薬による治療を担当している。臓器横断的な診療を心掛けており、関連する院内診療科と連携しながら、様々ながん腫を診療の対象に含めている。また、診療科名が示す通り、原発不明がん（十分な精査を行ったにも関わらず原発巣を特定できない悪性腫瘍）や希少がん（発生頻度が稀であるが故に診断や治療法の確立していない悪性腫瘍）に対する診療も積極的に進めている。

2. 診療実績

2016年実績では新規患者として、原発不明がん24例、悪性中皮腫や神経内分泌腫瘍などの希少がん10例、消化器がん9例、肺がん5例、肉腫5例などの診療を担当している。

3. 診療・教育スタッフ

畝川 芳彦（教授）：腫瘍内科学、固形がんの薬物療法、新規抗悪性腫瘍薬の開発的治療
板谷亜希子（非常勤講師）：腫瘍内科学、固形がんの薬物療法

4. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医（指導者）

研修責任者：畝川 芳彦（診療部長）
臨床研修指導医：畝川 芳彦
上級医（指導者）：板谷亜希子（育児休職中）

5. 臨床研修プログラムの特色

原発不明・希少がん科では、臓器横断的な抗がん薬物療法を担う若手医師の育成を第一の目標に掲げている。したがって、研修の主体は後期研修に入ってからになるが、初期研修期間中に、当科がどのような診療を担う診療科なのかを習得していただき、後期研修を進めていく上で必要となる画像診断や病理診断の基礎、放射線治療や緩和医療の実際に触れていただくことを研修の目標としている。

また、内科医としての幅広い知識の習得や診断学の習得、手技、処置法の習得が必要であり、消化器病センター、呼吸器病センター、放射線腫瘍科、病理診断科などのローテーションも選択可能である。

6. 経験目標・到達目標

一般目標（G10）

がん診療の考え方、とくに抗がん薬治療と緩和支援療法についての知識と経験を得る。

行動目標（SB0s）

がん診療の実際を研修において体得する。

到達目標と評価表（1ヶ月間研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 悪性疾患に対する基本的診察が実施できる。	()	()
2. 抗がん薬治療の適応が説明できる。	()	()
3. 緩和支援療法の適応が説明できる。	()	()

到達目標と評価表（2ヶ月目以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 指導医の下で抗がん薬治療を立案計画できる。	()	()
2. 抗がん薬治療を行う際の安全管理上の留意点を説明できる。	()	()

7. 週間スケジュール

毎週1回、カンファレンスや抄読会などを行っている。

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター 包括的がんセンター

原発不明・希少がん科 畝川 芳彦（診療部長、教授）

TEL : 042-984-4679

E-mail : ysegawa@saitama-med.ac.jp